

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 28

2009年4月20日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。  
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。

★今回の“静大ラボ紹介”は、朝間淳一研究室です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「平成22年度第1回オプトロニクス技術事業化研究会」のご案内
2. 「JST研究開発支援制度説明会（浜松）」のご案内
3. 「JST研究開発支援制度説明会（沼津）」のご案内
4. 「静岡大学との連携による新技術説明会」の開催予告
5. 「静岡大学開学60周年記念公開シンポジウムII」のご案内
6. 「静岡大学・読売新聞連続市民講座」のご案内
7. 「ビジネス支援相談会」のご案内
8. 静岡大学IJRC・知的財産本部発行の各種冊子のご案内

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は○欄に@を入れてください。

---

1. 「平成22年度第1回オプトロニクス技術事業化研究会」のご案内

日時 2010年4月28日(水) 15:00~17:30  
会場 グランドホテル浜松 2階 飛鳥の間 (浜松市中区東伊場1-3-1)  
内容 ○講演「CMOSイメージングデバイスのバイオメディカル応用」  
奈良先端科学技術大学院大学 教授 太田淳氏  
○報告「H22オプトロニクス技術事業化研究会事業活動計画」  
・全体の活動計画について  
・事業化を目指してのプロトタイプの紹介と今後の活動

詳細/申込み

<http://www.optronics-cluster.jp/whatsnew/index.cgi?mode=view&noall=42>

問合せ先 浜松地域テクノポリス推進機構オプトロニクスクラスター本部  
TEL 053-489-9111 担当 藤原

---

2. 「JST研究開発支援制度説明会（浜松）」のご案内  
～A-STEPフィージビリティスタディ・ステージを中心として～

日時 2010年5月24日(月) 18:00~20:00  
会場 静岡大学浜松キャンパス 佐鳴会館 会議室  
主催 JSTイノベーションサテライト静岡、静岡TTO  
後援 静岡大学知的財産本部、イノベーション共同研究センター  
内容 事業説明、相談  
問合せ先 JSTイノベーションサテライト静岡 担当 前波、鈴木康之  
TEL 053-412-2511  
E-mail [shizuoka@shizuoka-jst-satellite.jp](mailto:shizuoka@shizuoka-jst-satellite.jp)  
静岡TTO 担当 伊藤悟  
TEL 053-478-1708 E-mail [ip-leaf@stto.jp](mailto:ip-leaf@stto.jp)

---

3. 「JST研究開発支援制度説明会（沼津）」のご案内

ページ(1)

～A-STEPフィージビリティスタディ・ステージを中心として～

日時 2010年6月3日(木) 15:00～17:00  
会場 沼津工業高等専門学校 本館3階 会議室  
主催 JSTイノベーションサテライト静岡、東海iNET、静岡TTO  
内容 事業説明、個別相談  
問合せ先 JSTイノベーションサテライト静岡 担当 前波、鈴木康之  
TEL 053-412-2511  
E-mail shizuoka@shizuoka-jst-satellite.jp  
静岡TTO 担当 伊藤悟  
TEL 053-478-1708 E-mail tinet@jr.shizuoka.ac.jp

---

4. 「静岡大学との連携による新技術説明会」の開催予告

日程 2010年6月11日(金)  
会場 科学技術振興機構 東京本部B1F JSTホール  
主催 静岡大学、科学技術振興機構(JST)  
内容 静岡大学のライセンス可能な最新の特許技術を発明者が紹介  
参加費 無料  
問合せ先 静岡大学知的財産本部 TEL 053-478-1414  
○詳細は決まり次第JSTのホームページ<<http://jstshingi.jp>>  
に掲載します。

---

5. 静岡大学開学60周年記念公開シンポジウムII【第2回】のご案内  
「今、戦争と平和について考える」

日時 2010年4月24日(土) 13:30～16:15  
会場 静岡市産学交流センター6階 プレゼンテーションルーム  
定員 100名  
参加費 無料  
詳細/申込 <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event00032.html>  
問合せ先 静岡大学生涯学習教育研究センター TEL&FAX 054-238-4817  
E-mail LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

---

6. 静岡大学・読売新聞連続市民講座「未来につなぐ、食と健康」  
【第1回】「食の安全性について」のご案内

日時 2010年5月8日(土) 14:00～16:00  
会場 静岡市産学交流センター6階プレゼンテーションルーム  
定員 120名  
詳細/申込 <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event00022.html>  
問合せ先 読売新聞静岡支局 静大市民講座係 FAX 054-252-0310  
E-mail shizuoka@yomiuri.com

---

7. ビジネス支援相談会のご案内

日時 毎月第3水曜日午後13:00～17:00  
会場 浜松市立城北図書館(浜松市中区和地山2-37-2)  
相談員 はままつ産業創造センターコーディネーター  
定員 毎回4組まで(1組1時間程度)  
参加費 無料  
問合せ先 浜松市城北図書館 TEL 053-474-1725

---

8. 静岡大学IJRC・知的財産本部発行の各種冊子のご案内

- 1) 『平成21年度静岡大学共同研究に関するアンケート報告書』  
2010.3発行 A4版 63頁  
・ “静岡大学と共同研究を実施いただいた企業”と“静大研究者”  
に対する、共同研究開始から終了までの各局面における満足度  
および課題評価に関するアンケート調査報告
- 2) 『光・電子技術イノベーション創出拠点  
キックオフミーティング報告書』  
2009.8開催 2010.2発行 A4版 102頁  
・ 浜松・東三河地域の産学官連携拠点の紹介
- 3) 『メディカルイノベーションフォーラム2010報告書』  
2009.11開催 2010.3発行 A4版 150頁  
・ 大学と企業の医工連携による新製品開発を目指した取組み紹介
- 4) 『平成21年度東海iNET報告会・地域連携研修会報告書』  
2010.2開催 2010.3発行 A4版 134頁  
・ 東海イノベーションネットワークの平成21年度報告、  
静岡大学における産／学共同研究レビュー ほか

※送付ご希望の方は、下記まで希望冊数と送付先をご連絡ください。  
問合せ先 静岡大学知的財産本部 産学連携広報担当  
E-mail sangakukoho5Oipc.shizuoka.ac.jp

---

《 静大ラボ紹介 -13- 》

工学部機械工学科 朝間淳一研究室

初めて発明届を受けとり発明のポイントを伺おうと研究室にお邪魔した。先生は昨年静岡大学に赴任してきたばかりで、お部屋はまだすっきりしている。そこで目に付いたのは、書棚に在った分子ターボポンプのパンフレットである。

「ターボ分子ポンプ」、研究経歴に記載されていたテーマ「磁気浮上式人工心臓」、このたびの発明届「ベアリングレスモータ」とリンクしてイメージができそうだ。

磁気力により回転軸を非接触で支持する機構、併せて磁気力で回転して回転軸を回転子とすると軸受（ベアリング）の無い（レス）モータ、すなわちベアリングレスモータとなる。

このモータは機械的摺動部分がないために低発熱、無発塵、管理不要、オイルフリーなどの特徴がある。

一般のモータは軸の回転運動（ $\theta Z$ ）以外の並進（ $X$ 、 $Y$ 、 $Z$ ）と軸の傾き（ $\theta X$ 、 $\theta Y$ ）運動の自由をベアリングで拘束している。それぞれを磁気力で能動的に制御するものが元祖ベアリングレスモータであるが、単なる置き換えでは多くの変位センサ、アクチュエータ、インバータを必要とし、大型化、電力消費が問題となる。特に人工心臓には不都合な条件である。

先生の研究は、モータの構造を工夫し、これらの制御機構を簡略にすることである。具体的な内容は特許出願を期待しているのもう少しお待ちいただきたい。（記：知財コーディネータ 橋本誠一郎）

《 みんなのコラム 》

“早期論文発表と特許のジレンマ”

研究成果の論文発表は、大学の研究者にとって当然重要なことですが、産学連携を円滑に進めるためには論文発表にも工夫が要ります。

一般に企業では、製品発表や発売が重視されていますが、それよりも前に特許出願をしておかないと大変なことになるとの認識が徹底していません。開発戦略が知財戦略と一体化されているためです。

論文発表後の特許出願に、6ヶ月以内出願の例外規定（※特許法第30条）や米国仮出願制度（米国特許法111条：provisional application）があるので、大学の研究者は安易に考える傾向がありますが、決して薦められる方法ではありません。

日本の大学の第30条適用の割合を調べてみると、平成16年に公開された出願では20%でしたが、平成21年では約半分の12%（静大は8%）となっており、少しずつですが大学の意識も変わってきているようです。

産学連携で十分な成果を得るためには、論文発表前に十分な特許出願の準備期間を設けることの認識と、その徹底が不可欠です。大学が社会貢献としての産学連携を円滑に推進するためには、ノウハウ、研究、契約を含めた広い意味での知的財産の知識が必要であることを、関係者のみならず、教員の方にも理解していただければと願います。

※注記「特許法第30条」

<http://www.jpo.go.jp/toiwase/faq/reigai-01.htm>

（記：静岡大学知的財産マネージャー、  
太陽国際特許事務所所長 弁理士 中島淳）

《 編集後記 》

イノベーション共同研究センターの前は早桜満開。伊東学長の下での新体制が始まりました。

伊東学長は、大学の教育と研究に加え第三の使命である社会貢献について、イノベーション共同研究センターと地域連携協働センターを中心に、地域社会との多角的な関係強化を図ることを掲げ、学内の研究活動の情報を収集分析して地域のニーズに応えるプロジェクト研究の推進を表明しています。そのために、これから私達は、産学官連携への取り組みに加えて、大学が求められている基盤研究についてもグローバル化とダイバーシティのための支援を進めようと考えています。

静岡大学が、私達の地域の知の拠点、文化の拠点、人財育成の拠点、産業創出の拠点、未来創成の拠点となるために。新たな中期目標期間（第2期）をスタートする静大をこれからもどうぞ宜しくお願いします。

\* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・  
配信中止のご連絡は、[sangakukoho50cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho50cjr.shizuoka.ac.jp) まで  
お願いします。（↑送付の際は〇欄に@を入れてください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター（IJRC）

編集：原典子

編集責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

TEL 053-478-1414

Vol. 28\_10.04.20

URL <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>

\* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* —  
by Copyright(c)2008-2009 Innovation and Joint Research Center,  
Shizuoka University. All rights reserved